



(『下高井郡誌』より)

# 柳沢遺跡の調査成果

- 弥生時代を中心に -



(『柳沢区史』より)

長野県埋蔵文化財センター 鶴田典昭

## 1 柳沢遺跡の概要

### (1) 立地と遺跡範囲

千曲川の東岸、夜間瀬川との合流点の北側に広がる。平坦地が偏狭となり、なお、明治時代の夜間瀬川は現在より南側で千曲川と合流しており、夜間瀬川の流路は移動している。遺跡範囲は南北 800m、東西 600m となる (第 1 図)。

### (2) 文献に記された柳沢遺跡

『下高井郡誌』(T11)、『下高井』(S28)、『中野市誌』(S56)、『柳沢区史』(H4) などに出土遺物や古墳(小丸山古墳、塚穴古墳、八幡塚古墳)の記述がみられる。

- ・字屋敷添：県道工事(明治末期)、長野電鉄線工事(T13)で縄文時代、弥生時代の土器石器多数出土。長さ 6 cm の勾玉(T11 年出土)。
- ・字塚穴：塚穴古墳の近くで H 元年土器片と扁平片刃石斧が出土(右写真：「柳沢区史」より)



### (3) 柳沢遺跡の発掘調査

- ・H18 年～H20 年(築堤地点)：縄文時代～近世の遺物・遺構を確認。青銅器埋納坑発見。
- ・H28 年～H29 年(県道地点)：縄文時代～近世の遺物・遺構を確認。

## 2 築堤地点の調査成果(弥生時代について)

### (1) 主な遺構(弥生時代)

- ・竪穴住居跡 6 軒(中期後半 5、後期 1)。
- ・礫床木棺墓群 2 か所。土器棺墓 1 基。
- ・青銅器埋納坑 1 基。埋納時期は栗林式及び吉田式併行期に収まる。
- ・長方形土坑(土器廃棄土坑) 1 基。
- ・水田跡と溝跡。溝跡は水田用水であり、住居域との境。
- ・土坑群と溝跡。焼土跡 2 基。土器集中 4 か所

### (2) 主な遺物(弥生時代)：青銅器など弥生時代の遺物が重要文化財指定。

- ・土器(栗林式・吉田式・箱清水式)：基本土層 VI 層が包含層
- ・石器・石製品(管玉、勾玉)
- ・青銅器(銅鐸 5 点、銅戈 13 点)

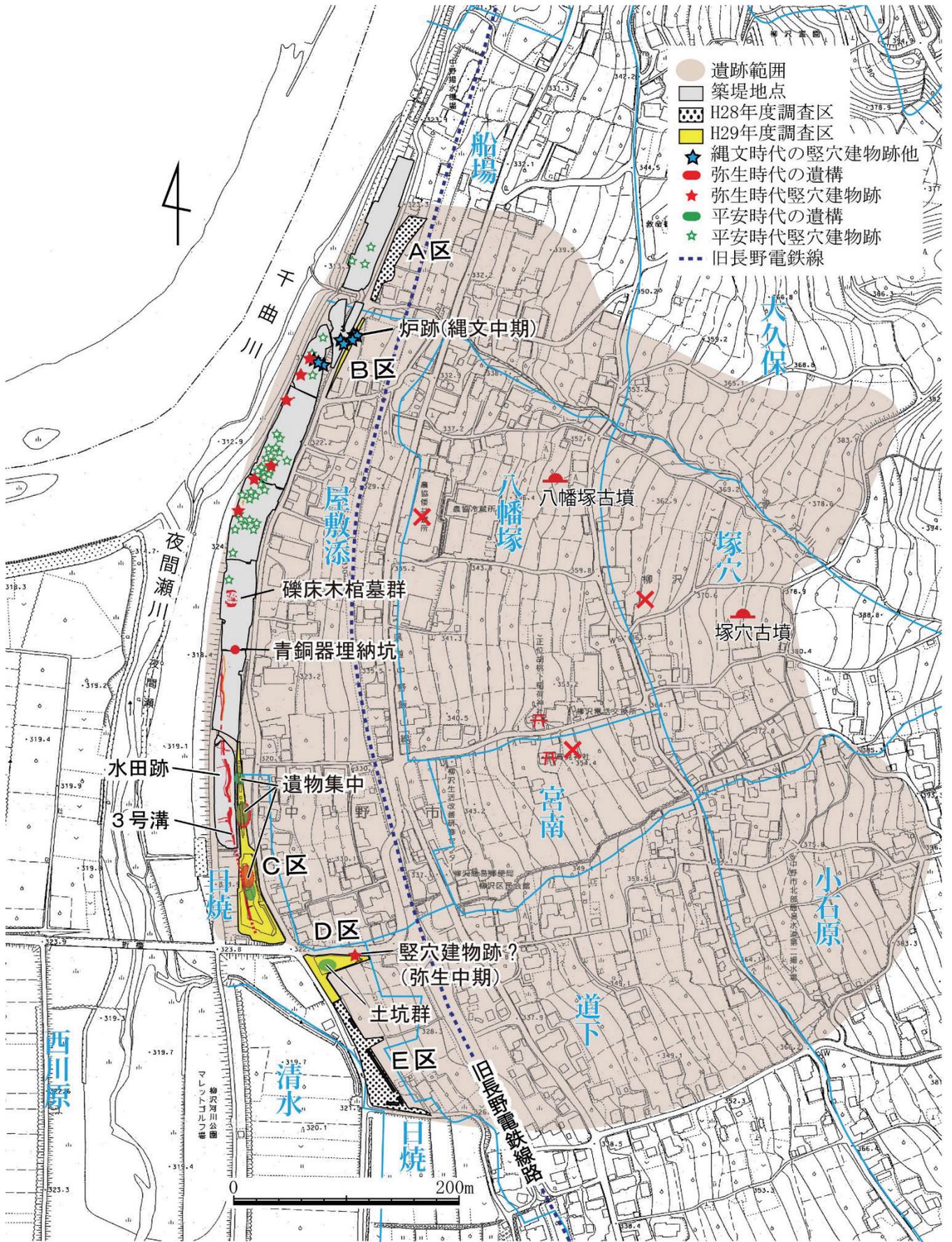
### (3) 青銅器埋納坑と銅鐸・銅戈について

- ・柳沢遺跡の青銅器は①いつ何処で作られ、②いつ誰が持ってきて、③どのように使われ、④いつ埋納したのか。

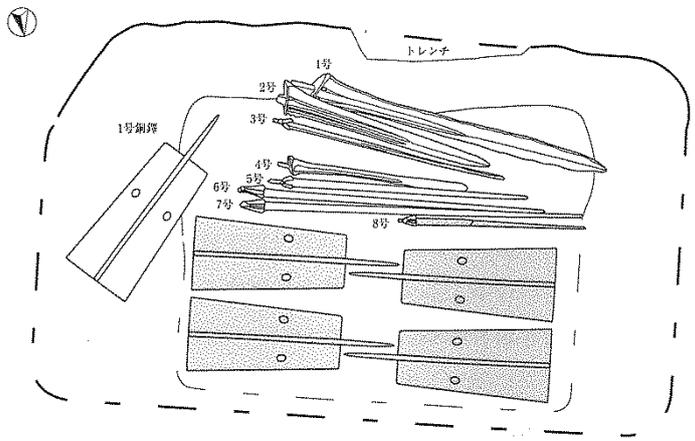
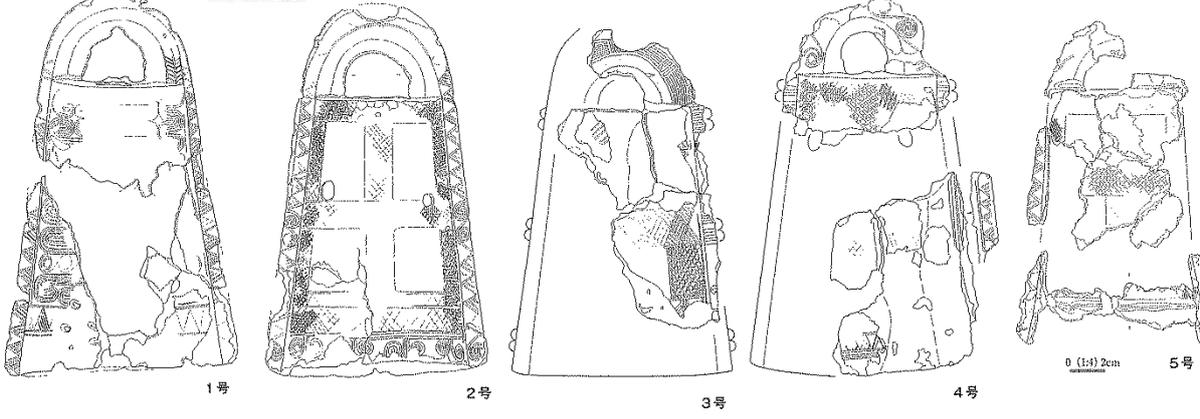
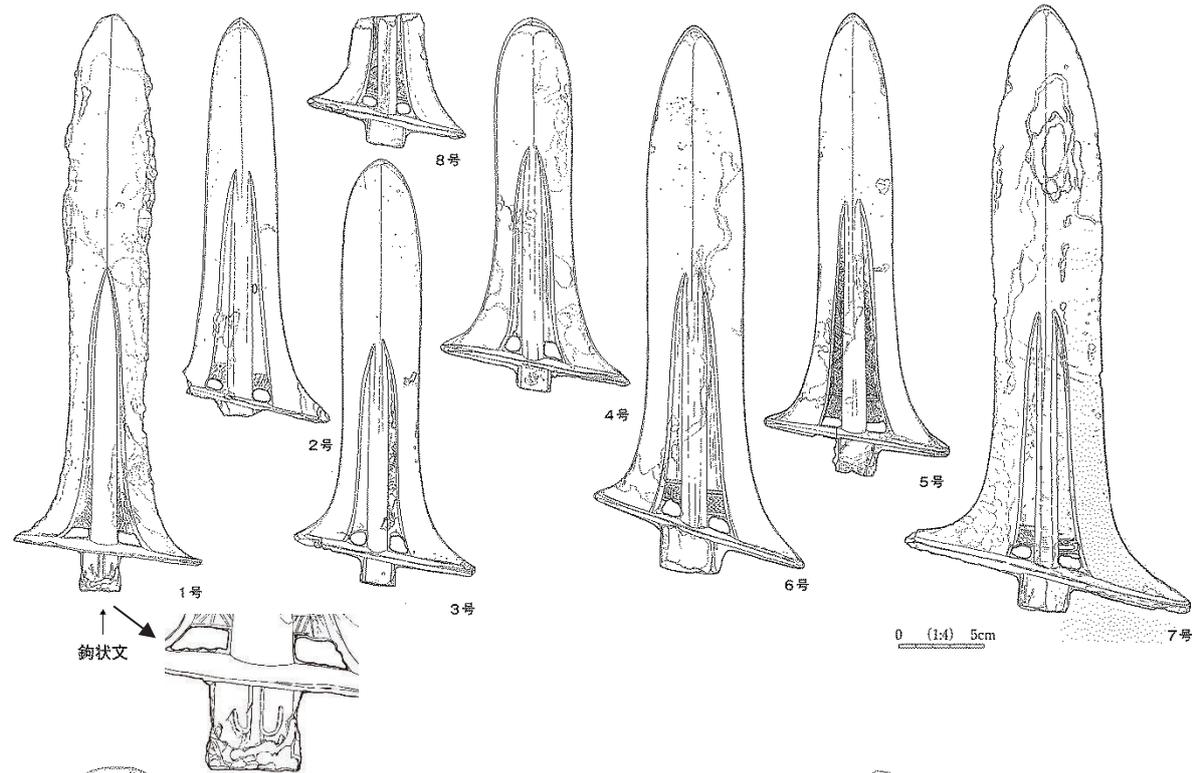
## 3 県道地点の調査成果(弥生時代について)

- ・弥生水田用水路(SD91：3号溝の続き)を覆う吉田式期と思われる洪水砂を検出し、水田が築堤地点 1 区の南側にも広がることを確認した。
- ・青銅器埋納坑の南側に栗林式期の竪穴住居跡と考えられる遺構を検出した。

## 4 今後の調査・研究に向けて 柳沢遺跡の全体像を探ることが今後の課題。

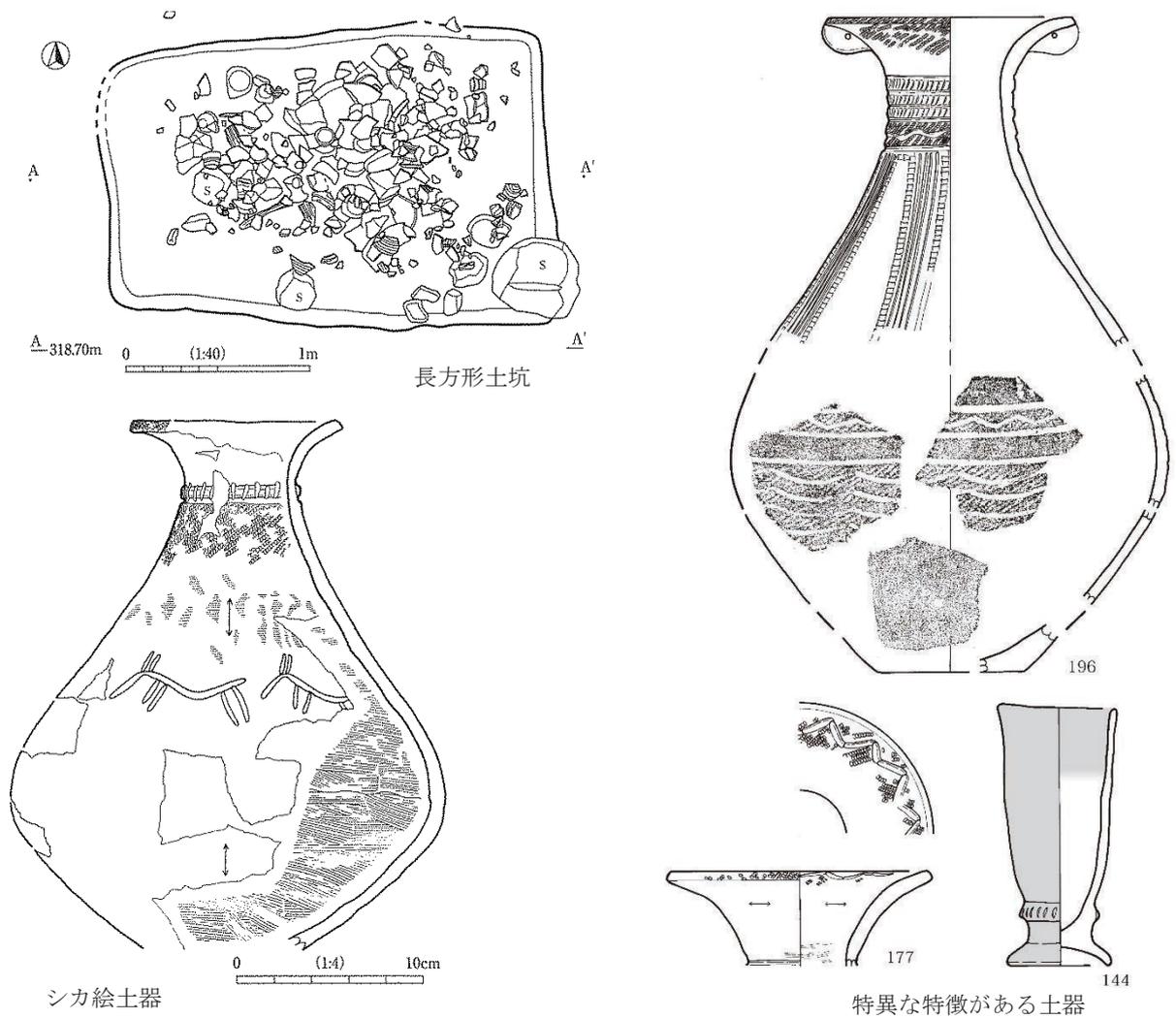


第1図 柳沢遺跡全体図



■ は推定埋納位置  
 1号・2号・4号銅戈は出土時の姿勢  
 1号銅鐸、3号・5号～7号銅戈は発掘調査の所見を基に埋納姿勢を復元  
 2号～5号銅鐸・8号銅戈の位置は他遺跡の出土事例を基に推定復元  
 2号～5号銅鐸の配置類は不明

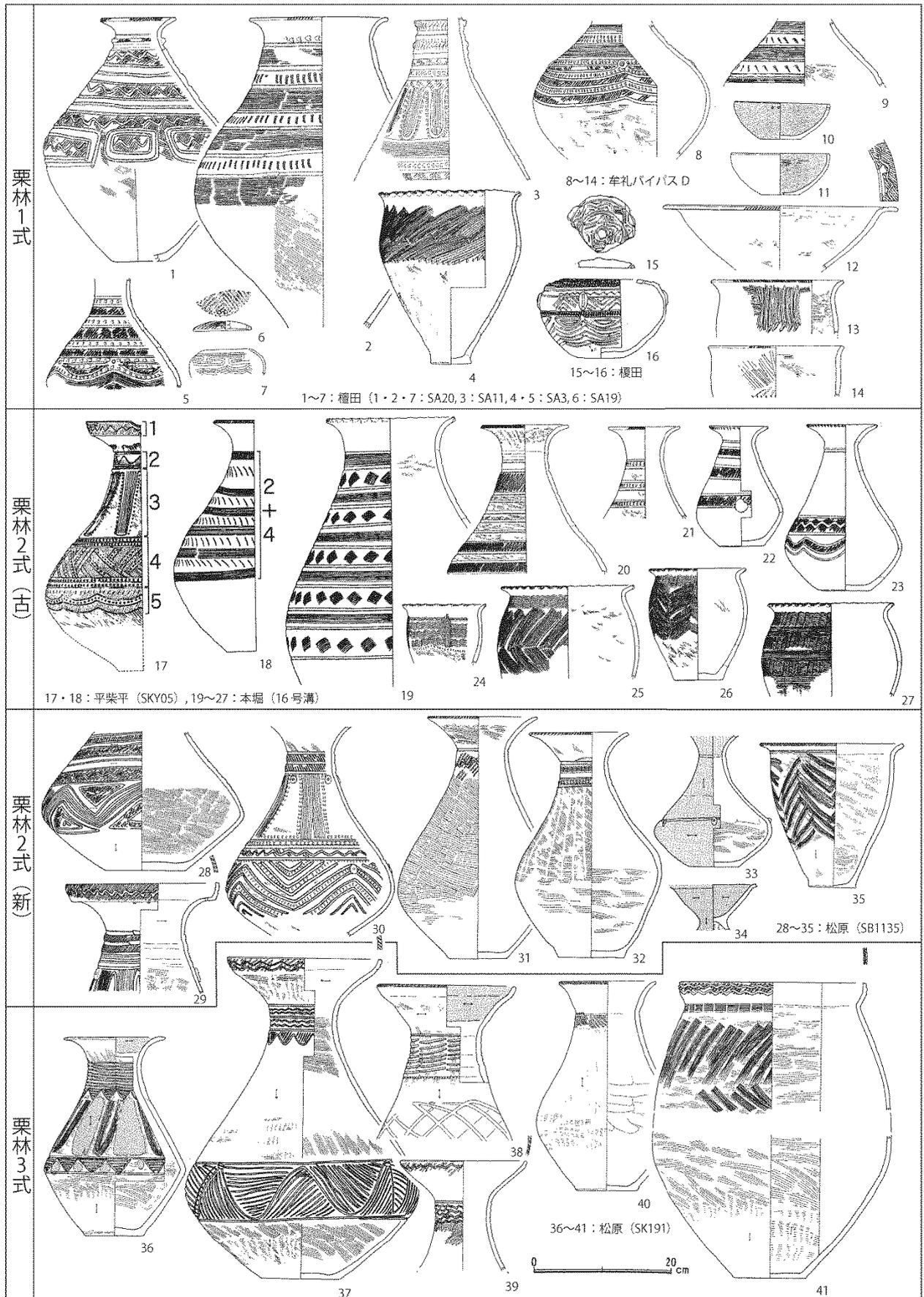
第2図 柳沢遺跡の青銅器埋納坑と銅鐸・銅戈



第3図 柳沢遺跡の遺構と土器

時代	時期	土器	打製石器	竪穴住居跡	水田 3溝 45溝 25溝	青銅器埋納坑	礫床木棺墓群	土器棺墓	長方形土坑	周辺の 主な集落
弥生中期	栗林1	■		■		■	■		■	琵琶島遺跡 檀田遺跡 南曾峯遺跡
	栗林2 (古)	■	■	■	■	■	■		■	
	栗林2 (新)	シカ絵	■	■	■	■	■		■	松原遺跡 南大原遺跡
	栗林3				■	■	■			
弥生後期	吉田	■			■	■		■		千田遺跡 本村南沖遺跡
	箱清水	■		■	■					がまん淵遺跡

表1 柳沢遺跡弥生時代遺構の消長



第4図 栗林式土器編年図 (石川日出志 2012 より)



第5図 せいとうきまいのうこう どうか どうたく  
 青銅器埋納坑の銅戈と銅鐸 (重要文化財)

# 銅戈・銅鐸の作り方

- レプリカ製作過程 -

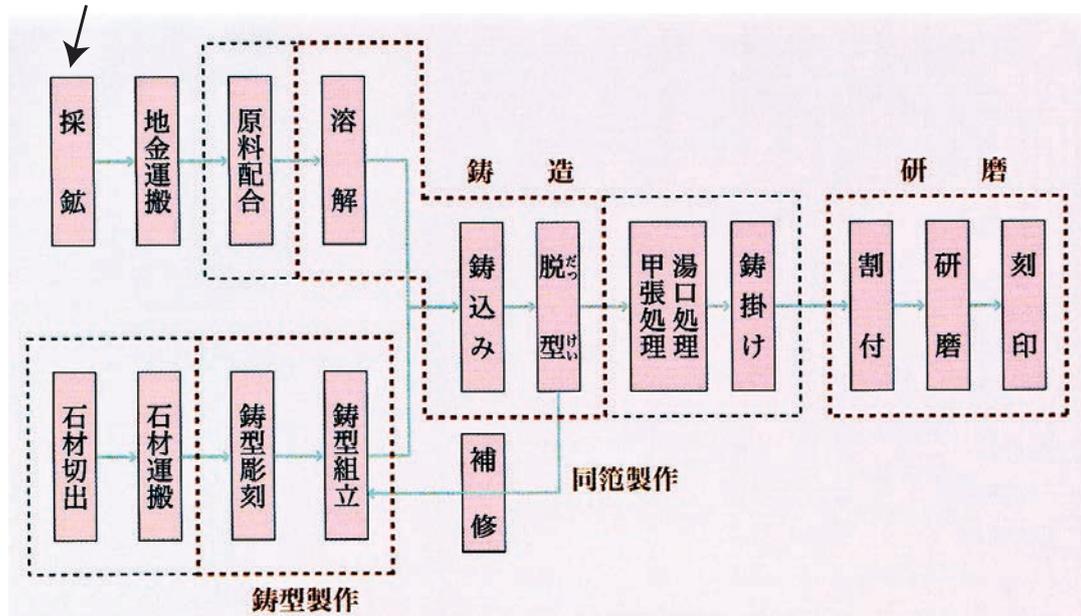
長野県埋蔵文化財センター 廣田和穂

- 1 柳沢遺跡の青銅器
- 2 青銅器のレプリカ製作（弥生時代の鑄造と比較しながら）
  - a 鑄型の作成
  - b 鑄型の組み立て
  - c 鑄込み
  - d 脱型
  - e 湯口切斷・甲張処理・研磨
  - f 完成



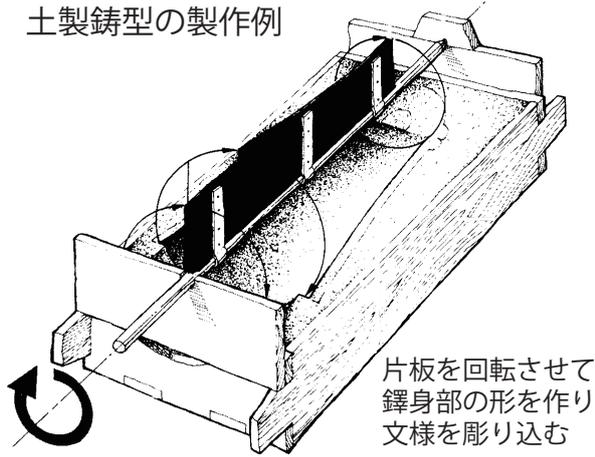
第1図 弥生時代の青銅器工房推定復元（唐古・鍵考古学ミュージアム 2006 より引用）

注：弥生時代の日本では、青銅器の原材料を朝鮮半島、中国から輸入していたと考えられている



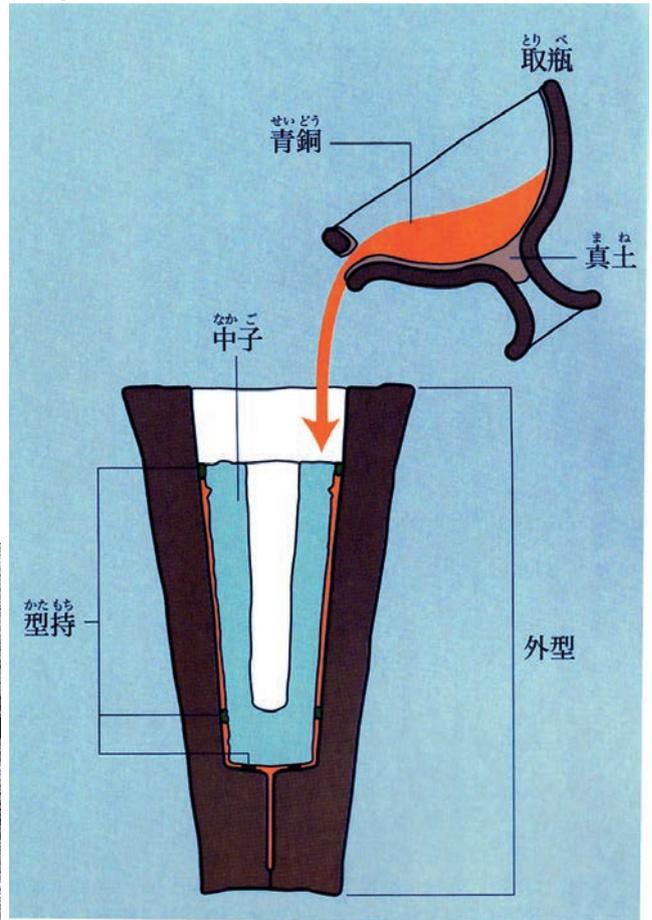
第2図 青銅器製作工程の一例（島根県古代出雲歴史博物館 2012 より引用）

土製鑄型の製作例



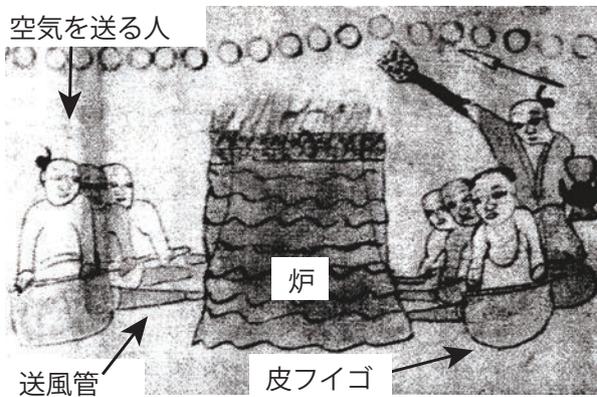
第3図 銅鐸鑄型（雄型）を作る（石野・稲川1986より引用）

鑄込み



第5図 銅鐸鑄型の構造模式図  
島根県古代出雲歴史博物館 2012より引用

皮フイゴを用いて炉内に送風する



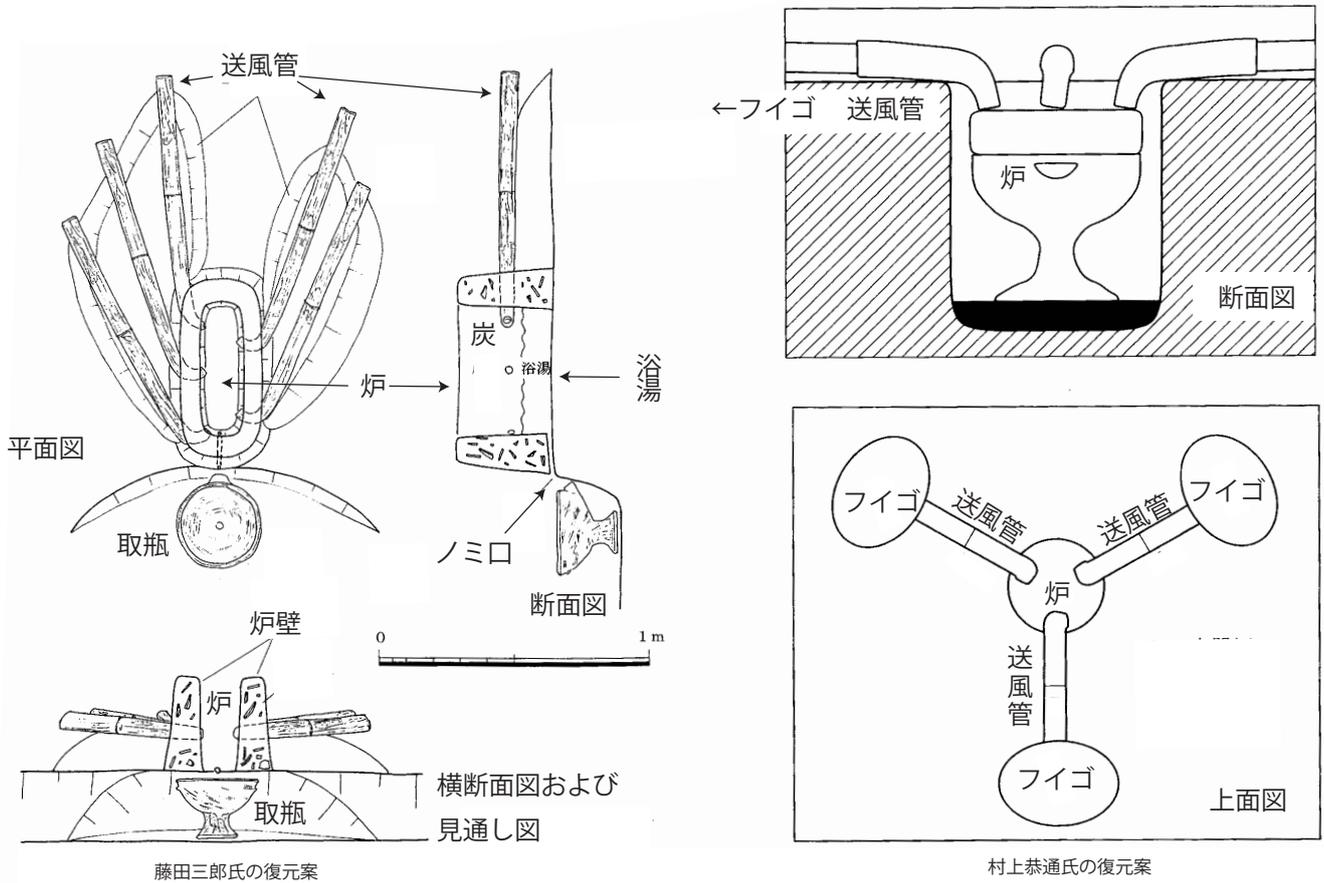
第4図 『小林孫右衛門絵巻』（17世紀代）  
難波 2009bより引用

第1表 柳沢遺跡出土青銅器の成分組成表（長野県埋文 2012）

↓ スズの含有量がAとBで大きく異なる

	Cu (銅)	Sn (スズ)	Pb (鉛)	As (ヒ素)	Bi (ビスマス)	Ni (ニッケル)	Zn (亜鉛)	Fe (鉄)	Mn (マンガン)	Ag (銀)	Sb (アンチモン)	Co (コバルト)	Au (金)	
B	1号銅戈	84.77	3.72	9.99	0.52	0.037	0.16	0.001	0.24	0.002	0.12	0.45	0.14	0.006
A	2号銅戈	77.34	14.96	5.28	0.19	0.026	0.10	<0.001	0.23	0.011	0.15	0.11	0.032	0.005
A	3号銅戈	76.28	13.25	9.35	0.27	0.026	0.13	<0.001	0.19	0.005	0.12	0.10	0.030	0.003
A	4号銅戈	76.96	11.99	8.84	0.22	0.030	0.14	<0.001	0.055	0.002	0.11	0.080	0.038	0.003
A	5号銅戈	75.14	14.13	8.06	0.24	0.035	0.11	<0.001	0.088	0.005	0.11	0.15	0.029	0.003
A	6号銅戈	75.32	13.37	8.82	0.27	0.043	0.14	<0.001	0.052	0.002	0.13	0.082	0.042	0.003
A	7号銅戈	72.70	15.17	9.45	0.13	0.033	0.12	<0.001	0.13	0.004	0.15	0.071	0.031	0.002
A	8号銅戈	77.74	11.59	8.78	0.19	0.038	0.11	<0.001	0.023	0.001	0.12	0.082	0.026	0.003
A	1号銅鐸	77.87	11.07	8.98	0.24	0.030	0.13	<0.001	0.16	0.003	0.13	0.087	0.031	0.042
A	2号銅鐸	78.67	12.30	6.85	0.16	0.026	0.13	<0.001	0.005	0.001	0.13	0.083	0.038	0.003
B	3号銅鐸	84.4	3.56	8.43	0.84	0.090	0.15	0.11	0.11	<0.001	0.15	0.56	0.041	0.012
B	4号銅鐸	84.1	4.54	8.21	0.62	0.048	0.16	0.15	0.13	0.002	0.12	0.46	0.051	0.005
B	5号銅鐸	83.4	2.06	11.3	0.66	0.063	0.15	<0.001	0.30	<0.001	0.13	0.42	0.11	0.005

A：原料が朝鮮半島由来（外縁付鈕1式銅鐸・近畿型I式銅戈） B：原料が中国由来（外縁付鈕2式銅鐸・中細形c類銅戈）



藤田三郎氏の復元案

村上恭通氏の復元案

第6図 青銅熔解炉の復元案 (榎原考古学研究所附属博物館 2009 より引用)

	銅 鐸			B類	武器		(銅鍍)	釧・鏡?
	A類				C類		D類	E類
鑄型外枠	大	中	小		大	小		
	取瓶							
砥石								
	平面形	大	中・小	中	小	小	小	
	断面形							

第7図 青銅器鑄造関連遺物の分類 唐古・鍵考古学ミュージアム 2006 より引用



1 模型と型枠の作成



2 型枠に鑄砂を詰め込む



3 茎を組む



4 鑄型を組む



5 鑄込み



6 脱型



7 鑄放し状態の銅鐸（湯口や甲張が残る）



8 完成

第8図 銅鐸レプリカの鑄造

協力 (株) コヤマ・(株) 小松製作所